

あたらし まち
新しい街づくり(4)
すいもん はいすいきじょう
水門・排水機場

浸水被害対策

江戸川区は、東京都の東部低地帯にあり、河川に囲まれ水路が縦横に流れる地理的な条件の中で、過去度々水害に見舞われてきました。そこで、この豪雨や高潮などの自然災害から住民を守るために、堤防、水門、排水機場など様々な対策事業が進められてきました。

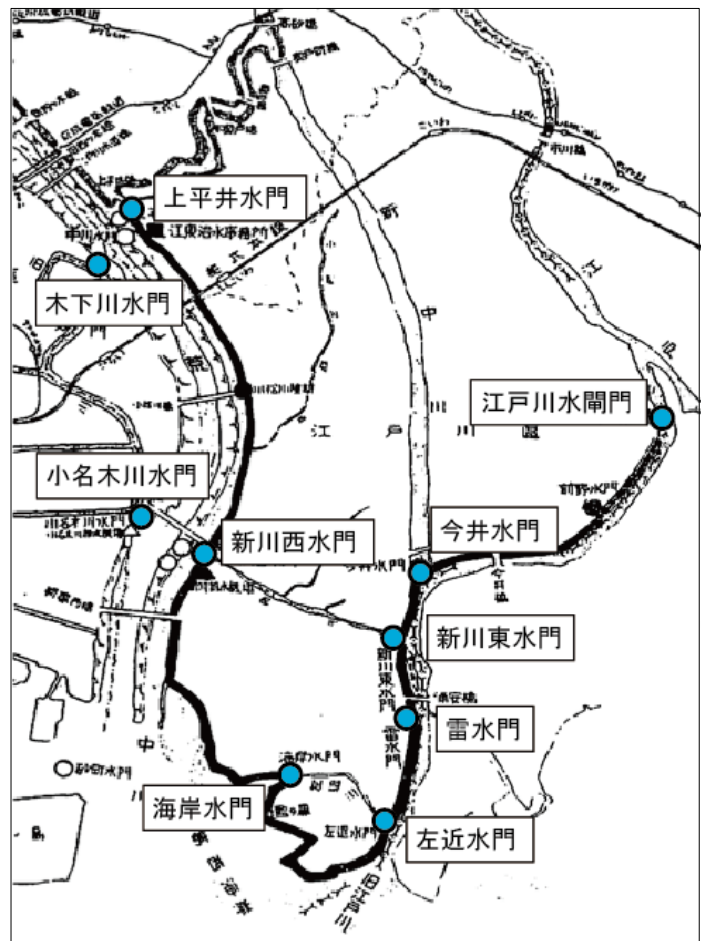
河川管理施設

主な施設には、水門、樋門、排水機場、閘門があり、東京都の事業として行われています。

水門は、平常時は内部河川への船の出入り口として使用され、台風などの高潮発生時には閉鎖して防潮堤としての機能を持ちます。

代表的な水門として今井水門があり、昭和38年(1963)に完成、新中川が旧江戸川と合流する地点に位置し、中川と綾瀬川の合流地点に位置する上平井水門と一体で操作することによって、江戸川区、葛飾区、足立区の低地帯を高潮から守る役割を持っています。現在区内には、今井水門、新川東樋門、新川東水門、江戸川水閘門(国土交通省管理)があります。

樋門は、船の通行ができない小さな水門を言い、主に水質浄化などの取水口として用います。閘門は、水位差のある箇所を船舶が運航できるように設けられた運



昭和38年頃の江戸川区内の主な水門

河や河川の施設で、二つの水門などで構成され、仕切られた水門内に船を入れ、進行する川の水位に水を増減、変化させることにより船を通過させます。現在は、平成17年(2005)に荒川ロックゲートが完成しました。それ以前には、小松川閘門、小名木川閘門、船堀閘門がありましたが、昭和50年代に閉鎖されました。



今井水門

排水機場

排水機場は、台風などの豪雨による浸水被害を防ぐための排水用ポンプを備えた施設です。下水道の普及率が低かった時代の代替の施設であり、区内の浸水対策の大きな役割を担ってきました。高潮時に水門を閉鎖すると内部河川の水位が上昇します。この水位上昇を防ぐために内部河川の水を外へ排出する働きをします。普段も稼働している施設もあります。

江戸川区の排水機場

区内の排水機場は、昭和9年(1934)には、排水ポンプを持つ樋門が3か所のみでしたが、同11年(1936)に3か所設置され、同26年(1951)に33か所、38年(1963)には^{いかずち}雷排水場(区内ではこの名称が多く使われた)が完成し、54か所となりました。同年、新中川放水路(現新中川)が完成し、昭和43年(1968)には、新川排水機場が設置され、同49年(1974)には区内の排水場は71か所、ポンプ数103機になりました。

しかし、平成7年(1995)には区内の下水道普及率が100%となり、下水道事業の新たなポンプ場の建設に従って、これらの施設は順次廃止されました。現在は新川排水機場のみとなっています。

排水機場の転用

廃止された施設は、多くは児童遊園や親水緑道、道路に変わり、中には、改築して他の用途に活かされています。

大杉排水場は小松川境川親水公園に水を送る「小松川境川ポンプ場」となり、^{くわがわ}桑川排水場は「かもめ福祉作業所」、海岸排水場は「新田コミュニティ会館」へと改修され利用されています。

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3 階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)